



オープンハイドロ製の潮流発電機。久賀島沖での実証事業にも同様の発電機を導入する(オープンハイドロのリーフレットから転載)

五島で大規模潮流発電

本県NPO主体 国内初の実証事業

国内初の大規模潮流発電

〇法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会などが

国は14年7月、久賀島沖

実証事業が五島市久賀島沖

ター形成推進協議会などが

など本県3海域を海洋エネ

で始まること25日、決ま

実施主体となり、最大出力

2メガワットの発電機1基を奈留

った。同日、環境省が委託

2メガワットの発電機1基を奈留

ルギー発電の実証試験をす

事業として採択した。県内

瀬戸の海底に設置、201

8〜19年度に運転し、実用

企業を中心に発足したNPO

8〜19年度に運転し、実用

定。久賀島沖が潮流発電向

け「実証フィールド」に選
ばれて初の具体案件とな
る。実証事業では一般家庭
で年間最大1400世帯を
賄える発電量を想定。委託
額は16〜19年度で36億円程
度を見込んでいる。

実施主体は他に全体統括

の九電みらいエナジー(福

岡市)と、新日鉄住金エ

ンジニアリング(東京)、オ

ープンハイドロ(アイルラ

ンド)の日本法人オープン

ハイドロ・テクノロジー・

ジャパン(東京)。長崎大

と九州大がアドバイザー。

発電機はフランスとカナ

ダで今年から実証運用され

ているオープンハイドロ製

をベースとして設計、組み

立てる。潮流を受ける回転

体や基礎構造物を含む全体

の高さは27メートル、重さ12

00トン。環境影響評価(ア

セスメント)や送電用海底

ケーブルの敷設も進める。

同協議会の坂井俊之理事

を本県の基幹産業に育てた

い。実証事業に伴う関連業

務をできる限り地元受注し

ビジネスモデルの構築につ

なげたい」としている。

潮の満ち引きを利用する

潮流発電は太陽光や風力と

比べ気象に左右されにくく

安定した発電が見込める。

国内では研究開発段階だ

が、欧州では実証から商業

化段階へ移行しつつあると

いう。

(田賀農謙龍)